

ペタンク通信

北海道ペタンク・ブール連盟
No.129 2022年7月
発行責任者 磯野憲二
メールアドレス ken-9753@sea.plala.or.jp
HP <http://www17.plala.or.jp/ken-9753/>

日本選手権へ北海道代表決まる 3年ぶりの選手権「その先の、道へ。北海道」



3試合目に1対9から11対9の大逆転
北海道代表となった池田町チーム

3年ぶり日本選手権大会「第37回日本ペタンク選手権大会」が富山県富山市で開催されます。このコロナ禍の2年間準備を進めてきた主管協会富山県ペタンク連盟の皆さんに感謝するとともに、大会出場を目指してきた会員、その舞台に出場される北海道代表の皆さんに、北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」を胸に健闘を祈念します。

7月3日道央・道東地区に分けての北海道予選大会、北海道代表枠は男子3チーム、女子4チームですが、男子の各地区2位の3位決定戦を7月16日池田町で開催され、激闘の末に池田町がむかわ町に逆転勝利して代表となりました。日本選手権大会の開催要項は7月17日、北海道事務局長から各代表チームに配付されました。

(日本選手権大会開催要項は日本連盟 HP に掲載 10月15日・16日)

第37回日本ペタンク選手権大会北海道代表チーム (男子3チーム・女子4チーム)

◎男子 北見市 滝口洋祐・山中清史・小野勝治 安平町 藤原 一・榎林義博・舛田仲永
池田町 中鉢 昇・嵯峨 旭・香田 昇

◎女子 美幌町 宮内 幸・藤村陽子・佐々木初恵 札幌市 熊谷雅代・横山順子・桑原芳枝
安平町 今井悦子・松山美恵子・舛田由紀子 北見市 佐藤宮子・大石恵美子・桜本葉子

第14回「パリ祭記念」ペタンク大会

7月10日(日)札幌農試公園屋外コートでパリ祭記念ペタンク大会が開催されました。札幌ペタンク協会中村会長より、大会報告です。

「当日は、生憎の雨にたたられ、当日受付の大会運営がみごとに裏切られた格好となりました。例年になく出足が悪く、参議院議員選挙と重なるなどして、参加者は過去最低となりました。そうした中、大会を盛り上げてくれたのは、おじいちゃんと初めて参加した小学5年の皆川広登(ひろと)君でした。今回初めて試合に参加するという広登君は、協会が準備したジュニア用ボールを、身体を目いっぱい使って投げ、何度も観客から拍手をもらいました。来年は、同年代の仲間達とチームを組んで参加し、新たな成長の姿を見せてもらいたいものと、今から期待しています。」



大会参加者の中にジュニアの姿！！
札幌日仏協会が行う年間の文化イベント

3年ぶりの大会再開、今年がペタンク普及元年になりますように！！
北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」

コロナ禍3年ぶりの大会再開も雨の中 **活躍したミックスダブルス!?** 北の大地のペタンク大会第34回ダブルス選手権大会



テランが水浸しの決勝・3位決定戦

道内ペタンク愛好者が全国のペタンカーと対戦できる! ? そんな大会が大会会場の広さの関係で36チーム、道内ペタンカーで大学生のペタンクサークルが北見の大会に次いで参加するはずが、このコロナ禍の影響で参加辞退、34チームで雨の中の熱戦となりました。美幌町ペタンク協会では3年ぶり大会で共催行事の美幌和牛観光まつりが中止となる中、協賛企業・団体も半減させて協力を依頼するなど、その準備にひと月をかけ、大会会場も会員所有のショベルで整地するなど、大会環境

を万全にして臨んだのに、何とティールのような当日雨という狙い撃ちにあって、参加者にとっては大変不本意な大会となる、11点先取を9点先取、終了時刻制限の時間を50分から40分程度に変更して、予選5試合を午前中に終了させるなどして対応しました。午後からの決勝トーナメントはテランが水浸しになるという最悪の中、中断しないで試合を続行させて無事大会を終えました。ペタンクは「いつでも、どこでも、だれでもできるスポーツ」なのですが、このような雨の中でも強行すると「どんなときでも」できるペタンクであることを実証したことになりましたが、参加者には感謝して、主管協会会員にはその後の後片付けにも感謝する大会となりました。

◎7月17日(日) 美幌町みどりの村多目的広場

◎安平町2・北見市14(2)・池田町7(1)・札幌市3(1)

むかわ町3(1)・美幌町5(1) 34チーム(決勝6)

◎成績 優勝 池田中鉢 仲鉢 昇・頼子 (池田町)

準優勝 北見ミント 村上英樹・幸江 (北見市)

3位 北見T・M 村田 勉・白川美喜子(北見市)

4位 美幌佐藤 佐藤英二・佐々木初恵(美幌町)



(左) 4位・準優勝・優勝・3位

大会前日曇り、当日雨、次の日は晴れという天候に、どうして当日だけが雨になったのか、変えられない天気には不満ばかり。不満といえば、決勝トーナメントを抽選にしないことの抗議がむかわ町から(対戦相手池田町)大会事務局にありました。本大会は受付順によりブロックが決まり、ブロック1位6チームがあらかじめ決められた決勝トーナメントとすることを大会開催要項で案内された通りです。

優勝した池田町の中鉢チームは、全道高齢者大会(準優勝)、北見でのティール選手権大会(3位)、オホーツクオープン大会(優勝)、北海道予選大会(3位北海道代表)、そして本大会での優勝と3年ぶりの年は破竹の勢いです。これからの大会の活躍にも目が離なせません。



美幌協会が所有するビニールハウス



雨にうたれたテント・看板・幟などは**大型乾燥室へ!?**

美幌町協会所有のビニールハウスのなかに、雨でぬれたテントなどを入れて乾燥させました。大会で使用したテント、テーブル、イスなどは当初借用してきたのですが、協賛企業・団体から広告料としての協賛金から計画的に整備してきたものです。第34回(31回)

を数える大会、協賛していただいた企業・団体とともに、会員の力で大会を開催してきたという気概が美幌町協会にはあるようです。本大会ではブロック6チームの5試合、リザーブ制(控え選手)を導入しましたが、次回大会は2日間でミックスダブルス、チーム数限定大会のために事前予約(リザーブ)で、オーバーの場合は抽選する大会を計画しています。(大会事務局)

7月31日開催の第23回太平洋ペタンクむかわ大会は、**新型コロナ変異株の急激な感染拡大している事態に、自治体との協議により、大会中止を7月24日決定しました。**

② 大会参加チーム数は道内9協会からの40チームでした。次回大会で再会しましょう!!

第22回東日本ペタンク選手権大会 7月23日・24日

3年ぶり大会で 北海道 2度目の準優勝



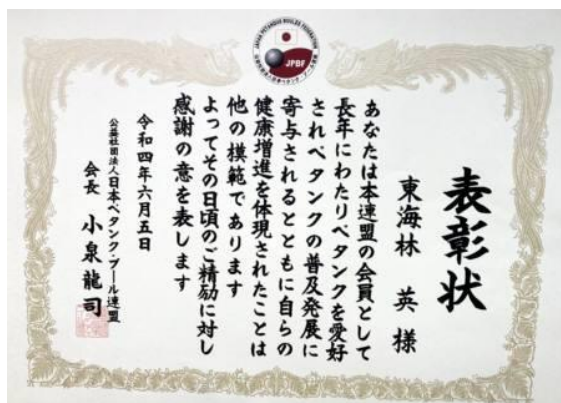
2度目の準優勝を果たした北海道チーム
(左) 熊谷夫妻・北林・村上夫妻

埼玉県熊谷市熊谷スポーツ文化公園「西多目的広場」で開催された3年ぶりの第22回東ペタンク選手権大会、54チームが参加しての予選9ブロック(6チーム)、ブロック3位までの27チームが、決勝トーナメントで優勝を目指しての2日間、北海道選手にとっては暑さとの戦いの中、見事3年ぶりの2度目の準優勝を果たしました。優勝は山梨Bチームで、決勝戦はダブルス・トリプルスも負けたものの、ラインで開催地の井上さんから、素晴らしいパフ

ォーマンスと北海道から参加してくれたことに対する感謝の言葉とともに準優勝を祝していました。思えば、第19回は北海道安平町での大会であり、決勝戦は井上さんの埼玉と札幌B(今回参加3人は同メンバー)、1対1から全員による1球勝負で札幌Bは準優勝でした。大会での北海道選手の活躍は日本選手権大会へ続く、「その先の、道へ。北海道」を応援しましょう!!

健康寿命がペタンク寿命 米寿を迎え感謝状届く

日本ペタンク・ブール連盟から88歳(米寿)を迎えた会員に感謝状が贈呈されました。道会員では渡辺艶子・清水富士子・穴戸綾子・山崎二太郎・東海林英さん5名に贈呈されました。ペタンクは健康でなければできません。米寿を迎えるためにも、ペタンクをやって、大いに楽しんでください。



深谷市の講演会で増田明美さんの講演を聞かせて戴きました。増田さんの座右の銘は「知 好 楽」だそうです。おのおのネットで調べてください。「何事をやるにしても、知っているだけの人より、好きである人が勝っており、さらに、好きだけの人より、楽しむ人が勝っている。」つまり何事も楽しんでやる人にはかなわない。といった感じですかね。増田さんいただきます🍌ペタンクでも「知 好 楽」ですよ。知っていることを強制的に人に教えると、教えてもらっている人は無理だな?絶望感に陥り、ペタンクが嫌いになり楽しくなくなりペタンクから離れて行ってしまいます。ペタンクする人が好きになり、楽しいと感じるようなペタンクを指導できるようになりたいと感じさせてくれた講演会でした。

(ブログ [第22回東日本ペタンク会残念ながら予選4位 - てくてく 歩こうよ・・・てね \(goo.ne.jp\)](http://goo.ne.jp)からの引用掲載)

JPBF 公認 C 級審判員資格検定 講習会8月11日(木)札幌市開催

7月25日までの申込みにより、受験者は3名です。講習会も3年ぶり、主催が公益財団法人北海道スポーツ協会/日本ペタンク・ブール連盟です。座学と実技を行います。C 級審判員は協議規則4時間・実技講習検定1時間・検定試験1時間です。主管の北海道ペタンク・ブール連盟/札幌ペタンク協会、講師はJPBF 公認 A 級審判員牧原統さんです。

ペタンク競技の審判員・指導員を目指す会員を対象に資格検定講習会を開催し、専門的な知識と実技の習得により審判員の養成と資質に向上を図るためにも、来年度以降も計画的に講習会を行います。(各協会での受講希望者を把握して、来年度計画に反映させてください)

